

8. 令和2年度埼玉県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

埼玉医科大学病院小児科・てんかんセンター 山内秀雄

まとめ

- 1) 令和2年度埼玉県地域連携体制整備事業埼玉県てんかん診療拠点施設埼玉医科大学病院が実施した、てんかん診療医療連携協議会開催、相談体制、治療体制、研修の実施、てんかんに関する普及啓発事業、後援事業について報告した。
- 2) てんかん相談体制としては、埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において昨年度制作された「てんかん診療相談マニュアル」に基づき、電話による相談が計190件行われた。
- 3) 治療体制として埼玉県内てんかん診療機関、治療レベル、診療連携状況を把握するための「埼玉県てんかん診療実態調査」計画されたが、実行に至らなかった。
- 4) 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医学生等を対象としたてんかん研修については院内においててんかんセンターカンファレンスを計6回実施し、院外において脳波てんかん研究会を計5回施行した。COVID-19感染拡大による影響で当初予定した回数半数の実施にとどまったが、途中からインターネットを利用したハイブリッド形式のウェブ開催を行った。
- 5) 一般市民を対象としたてんかん啓発事業としてインターネットによる配信による第1回てんかん市民公開講座（テーマ：てんかんをみんなで支えよう）を令和2年10月3日に開催した。参加者は203名であった。小児てんかんに対する自宅や学校でのてんかん発作時の対処方法、病院薬剤師による抗てんかん薬の副作用、てんかん手術についての3つの講演があった。終了後のアンケートでは回答者の8割以上が講演会に対して満足する結果であり、インターネットに接続できれば自宅や職場から容易に参加にできるなどさまざまな利点があることがその理由であると考察された。7割の回答者が講演会がウェブ形式で開催されることを希望し、講堂等に参集する従来の形式を希望する者はわずかに6%であったことは、所謂ポストコロナの時代となっても、てんかん啓発事業を含め、インターネットの利用は重要であると考えられた。

1. 緒言

平成30年11月1日に埼玉県は埼玉県てんかん地域連携体制整備事業に基づき埼玉医科大学病院を埼玉県てんかん診療拠点機関に指定している。その実務的な運営は主に埼玉医科大学病院てんかんセンターによって実施されているが、当センターは「学際的包括的連携による医療と福祉の理想郷を実現するため、高度なてんかん医療を提供する基幹施設として地域医療に貢献する」ことを理念とし、基本方針として、1) 患者さんの幸せのために安心で質の高いてんかん医療を実践し、地域医療に貢献する、2) 高度なてんかん医療を提供す

る地域基幹施設としての役割を果たし、関連施設との連携を行う、3) 人格的にすぐれ高い技能を持つ人材を育成し、診療に役立つてんかん研究の推進に努める、として主に埼玉県内におけるてんかん診療連携とてんかんの啓発を大きな2つの行動目標とし、令和2年度に実施した事業についての報告を行う。

2. 令和2年度事業計画

令和2年度埼玉県てんかん地域診療連携協議会（協議会）は山内俊雄協議会長が議長を担当した。協議会委員は右表の通りである協議会では①平成31年度埼玉県てんかん診療拠点機関実績報告、②平成31年度全国てんかん対策連絡協議会報告がなされた。

埼玉県地域連携体制整備事業の課題は、てんかん地域診療連携を推進し、医療機関に対するてんかんの助言・指導や一般市民に対する普及啓発を行うこととし、その行動目標は①てんかんの患者さんとご家族に対する専門的な相談、支援

氏名	所属及び役職名
山内 秀雄	埼玉医科大学病院 小児科教授・てんかんセンター長
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科講師
永露 とみえ	埼玉医科大学病院 外来主任
中本英俊	TMGあさか医療センター てんかんセンター長
落合 卓	おちあい脳クリニック 院長
相川 博	大宮西口メンタルクリニック 院長
浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター神経科 科長
唐橋 竜一	埼玉県保健医療部 副部長
番場 宏	埼玉県保健医療部疾病対策課 課長
関口 隆一	埼玉県立精神保健福祉センター センター長
丸山 浩	埼玉県川越市保健所 保健所長
福田 守	日本てんかん協会埼玉県支部
森 みどり	日本てんかん協会埼玉県支部
山内 俊雄	埼玉医科大学 名誉学長
丸木 雄一	埼玉県医師会 常任理事

と治療を行う、②医療機関へのてんかんに関する普及啓発、専門的な助言指導を行う、③関係機関（精神保健福祉センター・県内医療機関・保健所・市町村・福祉事務所・公共職業安定所等）との調整を行い連携の深化を行う、④地域一般市民の方々に「てんかん」という病気を理解していただくための啓発を行うことである。令和2年度埼玉県てんかん診療拠点機関事業計画実施案もこれらの行動目標を基に提示された。即ち、てんかん相談体制としては作業部会（ワーキンググループ）を設置し以下の事業を行う。①「埼玉県てんかん診療相談マニュアル」に従っててんかん相談電話相談を行う、②埼玉県てんかん診療拠点事業てんかん相談体制をウェブサイトで開示する。てんかん治療体制としては作業部会（ワーキンググループ）を設置し①「埼玉県てんかん診療実態調査」を施行する、②「埼玉県てんかん診療実態調査」に基づき、埼玉県内の現時点でのてんかん診療の問題点と解決すべき課題を明らかにしその方策を考察する、③さらに埼玉県内のてんかん相談・診療体制のための「さいた

また「てんかん診療ネットワーク」を作成しウェブサイト等に掲示することとした。てんかん研修の実施 予定について院内外の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師を対象とした研修が計画された。またてんかんに関するてんかん普及啓発事業の予定としては埼玉県てんかん診療連携体制整備事業市民公開講座、埼玉県てんかん診療連携体制整備事業てんかん啓発講座が計画された。その他てんかん関連事業として埼玉医科大学病院てんかんセンター特別講演会、埼玉県内てんかん診療専門施設内カンファレンスが後援事業として計画された。

3. 令和2年度事業実績。

①てんかん相談体制としては、埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において平成31年度に制作された「てんかん診療相談マニュアル」に基づき、電話による相談が計190件行われた。相談方法は電話が188件、直接来院が2件であった。相談者の内訳は患者本人45件、配偶者9件、父母117件、子7件、その他の家族・知人等0件、保健所・市町村等0件、民間事業者7件、医師5件であった。相談内容としては、専門機関での治療希望・病気の診断・薬の調整等が175件と最も多く、次いで検査希望・迷走神経電気刺激治療(VNS)の調整8件、妊娠中の治療希望・入院希望・転居のためが7件であった。それらの対応としては、拠点機関において治療を開始188件、相談のみで終了が2件であった。

②てんかん研修実施(表:研修実績)としては、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医学生等を対象として、院内でてんかんセンターカンファレンスを計6回実施した。そのうち5回は症例検討会形式、1回は講演会形式によるものであった。さらに対象と同様として院外において院内外の医師が主体となり、脳波てんかん研究会を症例検討会形式で5回実施した。これらの研修会はてんかん診療に関わる医師とコメディカルの互いの啓発と連携には大変効果的であった。当初の予定としてはこれらの研修はそれぞれ年12回、合計24回開催する予定であったが、COVID-19感染拡大のため、中止を余儀なくされたため、約半数の実施にとどまった。途中からインターネットを使用したオンライン会議の準備が整ったため、三密を回避した環境を確保した会場とオンライン会議を融合させたハイブリッド形式のウェブ開催を行った。

③てんかん普及啓発事業としては第1回てんかん市民公開講座がインターネットによる配信による開催を令和2年10月3日に行った。上記研修会実施の問題と同様に、COVID-19感染拡大による影響により、当初2回開催施行する予定であった、市民公開講座の開催は1回のみにとどまった。参加者は203名であり、昨年の参加者が100人程度であったことを考慮すると、参加人数は2倍となった。テーマは「てんかんをみんなで支えよう」であり、山内俊雄(埼玉県てんかん治療医療連携協議会会長)からの講演会の趣旨について説明があった後、山内秀雄(てんかんセンター長)より小児てんかんに対する自宅や学校でのてんかん発作時の対処方法について、水村亮介(精神科薬剤師)により抗てんかん薬の副作用について、平田幸子(脳神経外科医師)よりてんかん手術についての3つの講演があった。質問

が合計 18 件寄せられ質問時間 20 分間の予定を大幅に超過したため、チャット形式による質問は講演会終了後に講演者が手分けをして答えた。終了時に埼玉県終了後のアンケートでは 126 件の返信

があった。2 名のインターネット接続トラブルによる参加不可がみられたが、回答者の 83% が講演会に対して満足するという好評な結果となった。理由として講演のスライド画像・演者の音声がはっきりしておりわかりやすいこと、質問が比較的しやすいことなどがあげら

れた。しかしウェブ方式の講演会・会議などに慣れていない方への配慮も十分に配慮する必要もあると考えられた。今後の講演会の形式についての質問に対しては、69%の回答者がインターネット形式による講演会を希望しており、講堂等に参集する従来の形式を希望する者はわずかに 6%であった。

表：研修実績

開催	開催日	主な内容・講師
院内	令和2年6月18日	司会：渡邊さつき、発表：渡邊さつき、内容：心因性非てんかん発作を疑われて紹介された8年間未治療の側頭葉てんかん成人症例
院内	令和2年10月29日	司会：渡邊さつき、発表：颯佐かおり、内容：獲得性失語を認めたランドークレフナー症候群小児症例
院内	令和2年11月19日	司会：渡邊さつき、発表：砂原真理子、内容：睡眠障害とせん妄と診断されていた前頭葉てんかんの成人症例
院内	令和3年1月21日	司会：山内秀雄、発表：颯佐かおり、内容：有熱時の小児にみられるけいれんの鑑別(ウェブ開催)
院内	令和3年2月18日	司会：山内秀雄・藤巻高光、発表：水村亮介、内容：薬剤師のてんかんに対する苦手意識、講演：岩崎真樹、内容：国立精神神経医療研究センター病院におけるてんかん診療連携の取り組み(ウェブ開催)
院内	令和3年3月18日	司会：山内秀雄、発表：神経内科医師、内容：神経内科で経験したてんかん症例
院外	令和2年7月30日	司会：山内秀雄、発表：高田栄子(総合医療センター小児科)、内容：けいれん重積状態をきたした4歳男児の脳波経過とその治療
院外	令和2年9月10日	司会：山内秀雄、発表：岡島宏明(丸木メディカルセンター精神科)：精神症状とてんかん発作症状の鑑別が困難であった成人例
院外	令和2年10月28日	司会：山内秀雄、発表：倉持泉(総合医療センター精神科)：症例から学んだてんかんセルフスティグマについて
院外	令和2年11月25日	司会：山内秀雄、発表：渡邊さつき(埼玉医大病院精神科)：前頭葉てんかんの一例
院外	令和3年3月26日	司会：山内秀雄、発表：颯佐かおり(埼玉医大小児科)：(ウェブ開催)